

### ご意見・ご感想など（一例）

たくさんの貴重なご意見ありがとうございました。

#### 講義 1 に対して

- ・三回の変更でだんだんと良くなっていき、当院でも見直しを考えたいと思った。大変参考になりました。
- ・他施設における自動化やレイアウトに関する取り組みを聞くことは、とても勉強になりました。なかなか聞く機会がなかったので、今回受講した甲斐があったと感じました。

#### 講義 2 に対して

- ・「現状維持は現状維持でない」という言葉がとても響きました。
- ・とても分かりやすい講義でした。検査室にいますが、ずっと歩いています。無駄な動きがとても多く感じます。業務担当できれば歩く距離も少なくなると思いました。変化や改善を考えたいと思いました。

#### 講義 3 に対して

- ・現在の検査部における人員不足を解決していくための、ポイントと現在の検体処理技術を教えていただき勉強になった。
- ・画期的な話で感心するばかりでしたが、大規模施設ばかりでなく、中小規模施設用の搬送ラインであったり、前処理装置などがあれば、その分に係る人員を他の業務に当てられて助かるだろうなあと感じました。

### 本研究会のどのような点が役に立ちましたか？（一例）

今回頂戴しましたご意見に対し、以下の通り、一部ご回答させていただきます。

他県からの参加ではあるが、他施設の現状や最新の処理技術など学ぶことができたため、今回の講演の内容を活かして自施設においても何かしら改善を行なっていきたいとおもう。

➤他県からもご参加いただきありがとうございます。オンデマンド配信を活用し、今後も職場の同僚の方などとお誘いあわせのうえ受講していただきますようお願いいたします。

・当院は小規模の病院なのですが、他施設の状況など聞くことができ、今後の検査室の流れに取り残されないようにしていきたいと思いました。ありがとうございました。

➤今回の講演では、大規模施設での自動化ラインの運用を主としてお話をさせていただきました。様々な規模のご施設で参考になる内容をお届けできるよう、今後も研究会では、基礎的な内容から実践的な内容まで幅広く発信していけるよう努めてまいります。

## 設問と回答

設問1) 講義1：自動化のメリットではないものを選択してください

- ①検査の効率化 (×)
- ②TAT の短縮 (×)
- ③技師の作業負担軽減 (×)
- ④消耗品の増加 (○)：正解
- ⑤インシデントの減少 (×)

設問2) 講義1：講演内容と一致するものを選択してください

- ①レイアウト変更は3回実施された (×)
- ②搬送ラインに免疫検査機器は接続するべきではない (×)
- ③レイアウト変更後も TAT の変化はなかった (×)
- ④自動化によるトラブルは発生しない (×)
- ⑤自動化によるメリットは大きいため、今後も取り入れていきたい (○)：正解

設問3) 講義2：「2030年の医療を予測する3つのキーワード」より、2020年代は「医療●●」と言われている。●●に入るものを選択してください。

- ①医療1.0 (×)
- ②医療4.0 (○)：正解
- ③医療新時代 (×)
- ④医療崩壊 (×)

設問4) 講義2：「日本臨床衛生検査技師会が示す今後の方向性」より、平成31年に出ている提言「将来に向けての臨床検査技師の在り方」の中で正しいものを全て選択してください。

- ①AI × 臨床検査技師 (○)：正解
- ②予防医療 × 臨床検査技師 (○)：正解
- ③コーディネーター × 臨床検査技師 (○)：正解
- ④在宅医療 × 臨床検査技師 (×)

## <まとめ>

2022 年度 12 月研究会も Web 配信にて、県外会員様も生涯教育付与対象とし実施させていただきました。事前申込 215 名に対して 140 名の方がレポート提出してくださいました。多くの方々にご視聴いただきありがとうございました。

今回は『検査と自動化』をテーマに掲げ、実際の現場における自動化の運用、自動化システムの変遷、自動化の最前線について、解り易く解説させていただきました。他施設の運用状況を知ることができ、皆様のご施設でも参考にいただける内容だったのではないのでしょうか。自動化の導入により生ずるメリット・デメリットを改めて考え、今後の検体検査室の運用を検討していきたいと思いました。

今回の研究会が皆様のご施設の精度維持・向上の一助となれば幸いです。今後も皆様により良い情報提供ができるように班員一同、精進してまいります。

以上

作成・回答編集・問い合わせ先：生物化学分析検査研究班

名古屋市立大学医学部附属東部医療センター 中央検査科  
伊藤 綾香

TEL：052-721-7171

E-MAIL：emc2206@nagoya-cu.ac.jp